

登録番号 第 24149 号

シアゲ MF[®]1 キロ粒剤

- 特長；
- ノビエに卓効を示す新規成分「メタミホップ」を配合する混合剤です。
 - 湛水処理で使用可能な中後期剤です。
 - ノビエに対して4.5葉期まで使用可能。速効性及び残効性にも優れています。
 - 効果発現が速く、幅広い雑草種に高い効果を示します。

シアゲ MF は科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	ピリミルスルファン・・・0.60% メタミホップ・・・0.90% MCPB・・・2.40%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2020年7月8日現在の内容です。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 キシュウスズメノヒエ 多年生広葉雑草	移植後20日～ ノビエ4.5葉期 但し、収穫60日前まで	1kg/10a	2回以内	湛水散布又は無人航空機 による散布
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲3.5葉期～ ノビエ4.5葉期 但し、収穫60日前まで	1kg/10a	2回以内	湛水散布又は無人航空機 による散布

ピリミルスルファンを含む 農薬の総使用回数	メタミホップを含む 農薬の総使用回数	MCPBを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内(乳剤及び液剤は合計2回以内)	2回以内

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意事項

- (1) 本剤はノビエの4.5葉期まで有効なので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは花茎20cmまで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは4葉期まで、オモダカは矢じり葉4葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈30cmまで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、キシュウスズメノヒエは再生茎5葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈20cmまでが本剤の散布適期である。
- (2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) キシュウスズメノヒエ防除は展開葉が水面に接する条件で使用すること。
- (4) 田植前後に使用する土壌処理除草剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布すること。
- (5) 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で処理後低温が続く場合には、稲苗の生育抑制などをおこすおそれがあるので、処

理後数日間の平均気温が 15～16℃以下になると予想される場合には使用をさけること。

- (6) 直播水稻に使用する場合は、薬害をさけるため稲の 3.5 葉期以降に使用すること。
- (7) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から 5 m 以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (8) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (9) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、散布後少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態（水深 3～5 cm 程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (10) 以下の水田では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深 2 cm/日以上）
 - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (11) 強風時の散布はさけること。
- (12) いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他の物とは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。